

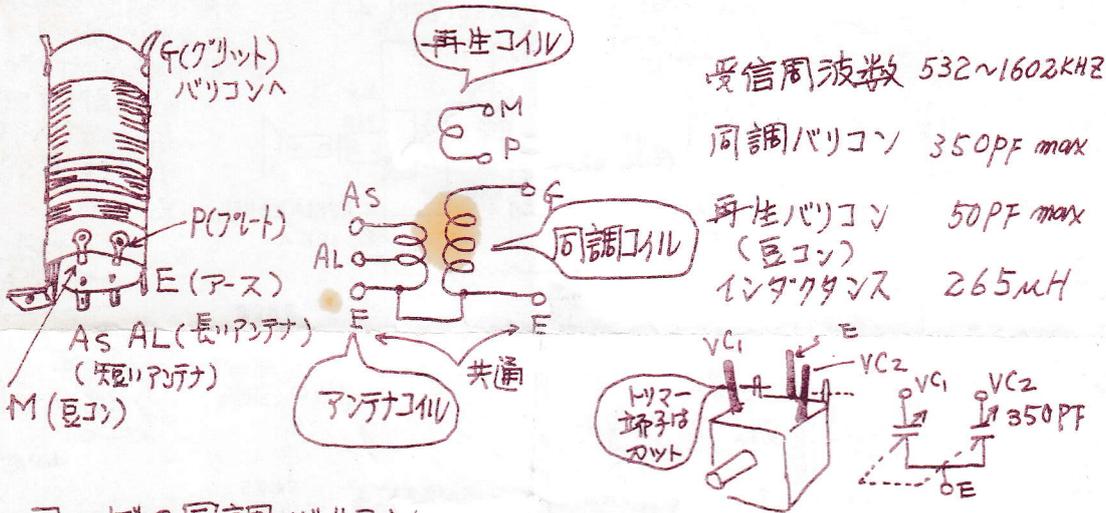
ミズホ並四コイル

MIZUHO

並四コイルの名の由来は、再生グリッド検波、低周波増幅2段、半波整流の4球受信機(オ1図)を並四球受信機と呼びました。このラジオ用コイルとして作られたことから並四コイルと名がつけました。4球でも高周波増幅回路付のタイプE高一受信機と呼び並四と区別していました。

応用の広い並四コイル

並四コイルは中波ラジオのコイルとしては基本的なものですから並四に限らず、入門用の鉱石(ケルマ)ラジオ、1球、2球、3球等のストレートラジオ、1~2石のトランジスタ、やFETを使ったラジオ等、その応用価値は高いものです。



コンビの同調バリコン

かつては 350PF のエアバリコンが市販されていましたが、すでに生産中止してから 15~20年 たちまっていますので、まず入手は不可能です。そこで、当社では ホリバリコンで 350PF (350PF X2 の一方を使用) を用意して、この並四コイルとコンビで使用できるようにしました。

ST管(ケルマ管)など使用のときホリバリコンでは、外観上、どうもと思われる方は、ホリバリを小エリアルミBOXに入れて使用すると、球にもマッチします。昔(50~60年前)ホリバリの原形である、シルドバリコンと呼ばれる、平たい金層ケースに入ったホリバリの親分のようなバリコンがあったことを覚えておきます。(当時ホリシートは銅のシートでセルロイドのシートを絶縁に使用していました。) ラジオ少年であった諸兄は、ジャンクBOX等を探索してエアバリコンがみれば、2層でも3層でも、片のうちの1セクションを使えばよいのです。現在球式ラジオを作るうえでは、新幹線の走る時代にはSL(蒸気機関車)を再現するものでも、パーツ集めが大変ですが、そこがまた面白いです。